いきいき財団Topics①

女性の負担を解消する働き方改革

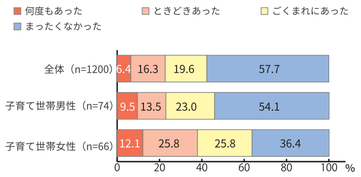
コロナ禍が仕事や生活に与えた影響。そして、人々がその中で何に困り、どのように対応したのか―。2021年度、クレオ大阪中央研究室が調査を実施しました。
今回は、女性のケア役割について報告します。

家族の健康を守る責任感が女性の重圧に

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会のシステムや人々の生活に大きな影響し、今やウィズコロナを前提とした経済活動やライフスタイルが定着しつつあります。外出自粛の要請で、在宅勤務や学校閉鎖によるリモート授業も導入されました。家庭での在宅時間も変化し、家事・育児時間が増加。特に女性の負担が大きくなっています。

こうした中、生活に関する困りごとについて聞いたところ、「生活の維持、収入に関すること」と回答した人が29.4%で最も高い項目となりました。最も男女差が見られる項目は、「健康に関すること」でした。

自分自身及び家族の健康を守る責任が大きすぎると感じた頻度



「令和3年度大阪市　男女共同参画の視点からの新型コロナウイルス感染症影響下における仕事・生活に関する調査」より作成

「自分や家族のからだの健康」は男性22.8%なのに対し女性は33.2%と約10ポイントの差があります。「自分や家族のこころの健康」と回答した割合も、女性の方が高くなりました。これは、女性が多くのケア役割を担っていることと関係があります。実際に、「自分自身及び家族の健康を守る責任が大きすぎる」と感じた人の割合は、男性よりも女性の方が高くなっています。

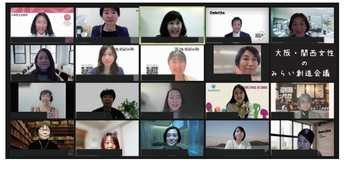
特に子育て世帯（末子が中学生以下）の女性は37.9%、男性は23.0%の人が、「何度も、もしくはときどき責任が大きすぎる」と回答しています。家事・育児・介護の負担だけでなく、家族の健康に対する責任感も加わり、女性により重圧がかかっていることがわかります。

多様な価値観に対応しアップデートしよう

こうした女性の負担感を軽減するためには、性別を問わず、働き方の見直しが必要です。単に労働時間の短縮や人事評価制度を再検討するだけでなく、家庭内での役割分担の見直しなど、多様な価値観・働き方に対応したものへ改善していくことが重要です。改めて、私たちが望む働き方、暮らし方をどのようにアップデートしていくかが問われています。

いきいき財団Topics②

大阪・関西発！サステナブルな社会へ



2014年度から始まった「大阪・関西女性のみらい創造会議」。企業・行政・大学・非営利団体といった所属の垣根を越えて連携し、大阪・関西の未来をジェンダー視点から共に創り上げるプロジェクトです。

5回目となる今回は約60人が参加しました。ゲストとして、NPOや企業のアクションチームを作り社会課題の解決をめざす白井智子さん（新公益連盟代表理事）、女性の健康をトータルサポートする顧問助産師サービスで起業した岸畑聖月さん(With Midwife代表取締役）、NPOと連携し社会貢献に取り組む小國泰弘さん（デロイト トーマツ コンサルティング合同会社）の3人が登壇。「年齢を問わず、社会状況に合わせた価値観のアップデート」「教育の評価軸の転換」「官民のパートナーシップの重要性」など、サステナブルな社会実現に向けたアイデアが交わされました。

参加者からは「感性や視座の高さに合わせたコミュニケーションが必要だと感じた」「社会の平等、公平について改めて考える良い機会になった」といった声が寄せられました。

財団では、本事業に加え、今年8月、米国のフィッシュ・ファミリー財団と共催し、女性リーダー育成研修「JWLI Bootcamp 2022」を実施します。

さまざまなワークショップや対話を通じ、参加した女性が本来持つ意欲・能力を引き出し、失敗を恐れずに行動できるよう、後押しします。次号の財団ニュースで詳細をお伝えします。

Work support PLUS

ワークサポートプラス

従業員満足を高め、組織を活性化するために
必要なサービスを 必要な分だけ

組織・職場の課題	働く人の課題	Work support PLUS	
☑ハラスメント防止	☑子育てとの両立	社内研修	組織活性
☑コンプライアンス	☑介護との両立	相談	人財活性
☑人材育成	☑人間関係	ハラスメント社外相談窓口	働きがい
☑各種両立支援 ダイバーシティ推進	☑働き方・キャリア	女性活躍推進プロジェクト支援 等	ダイバーシティ経営

大阪市男女いきいき財団は、1993 年の設立以来、男女共同参画やダイバーシティに関する
プロフェッショナル集団として、学校や企業、病院といった組織の風土改善・活性化を支援してきました。
ワークサポートプラス は、従業員の皆さまが健康で安心して働ける環境を整備することで、
従業員満足（ES）を高め、離職防止や生産性向上につなげる包括的なサービス です。
下記のサービスをベースに、それぞれの企業のご要望に応じたプランをオーダーメイドで提供します。
料金はプラン内容によって異なります。まずはお問合せフォームから、お気軽にお問合せください。

オーダーメイド社内研修

ご希望のテーマや研修対象などに応じてオーダーメイドの研修プログラム企画のご提案から講師手配、研修当日までトータルコーディネート。組織が抱える課題解決にむけたテーマをご提案します。

ライフサポート相談

「部署の人間関係」といった職場の悩みから「育児・介護と仕事の両立」「キャリア開発・モチベーション」などの家庭や働き方の不安や悩みまで、専門相談員がサポートします。従業員の皆さまが安心して相談できる環境を整えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です
5 ジェンダー平等を実現しよう

大阪市男女いきいき財団 NEWS
発行 大阪市男女いきいき財団 正式名称 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
〒543-0002　大阪市天王寺区上汐5-6-25 クレオ大阪中央内
TEL：06-7656-9040　FAX：06-7656-9045　https://www.danjo.osaka.jp/

発行:2022年6月

大阪市男女いきいき財団 ニュース NEWS

vol.45
2022.6

財団が1年間に取り組んだ事業をピックアップ

ハイライト2021

一歩ずつ、前へ進む。

- 各自治体でのSNS相談・生理用品配布
- 大阪市男女共同参画キャッチフレーズ
- 女性のケア役割に関する調査
- 大阪・関西女性のみらい創造会議

What's 大阪市男女いきいき財団?

ダイバーシティ（多様性）の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがイキイキ暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪）5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

コロナ禍の女性支援のその先へ…

～SNS相談・生理用品配布の現場から～

「とにかく誰かに相談したかったんです」
「一人で抱え込んでいたことがやっと言えました。相談後、涙が止まりませんでした」
「何度も相談していいですか？ホッとできます」…。

コロナ禍での女性のためのSNS相談での声です。

以前なら、日々の会話や雑談の中で、友人や周囲の誰かにつらい気持ちや弱音をぽろりと吐き出せていたでしょう。外出自粛などで、そうした機会が減った影響は、想像以上に大きなことかもしれません。

長引くコロナ禍の影響は、非正規雇用で働く女性に大きな打撃となりました。また、学校や保育園、介護施設などの休止により、家庭で過ごす子どもや高齢者のケアにかかる女性への負担が大きくなりました。就労面でも生活面でも、女性に特に深刻な影響が及んでいます。

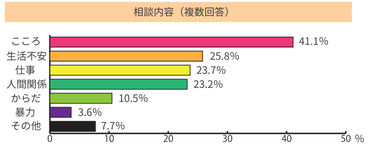
そうした中、国は緊急対応として、全国の自治体を通じて、女性支援事業（SNS相談窓口・つながりサポートの場の設置や生理用品の配布）を展開しました。当財団も、大阪市、堺市、八尾市の事業を受託しました。

いずれの市の取り組みも、孤独・孤立、不安を抱える女性が、社会との絆・つながりを回復することをめざしています。生理用品の配布だけに留まらず、配布をきっかけとして相談事業につなげるという仕組みです。各事業を通じて見えてきた現状や課題をお伝えします。

必要な情報が届いていないSNS相談で見えた課題

一人暮らしの方は、生活を維持するための仕事についての不安や悩み。ひとり親の方は、経済的困窮も含めてこれからの生活への不安。家族と暮らす方は、家族がいても話せない孤立感や孤独感…。家族の有無にかかわらず多岐にわたる相談が寄せられました。

たとえば「大阪市女性のつながりサポートLINE相談」では、40代が35.2%と最も多く、10代から60代以上まで幅広い年齢層が利用しました。相談内容は、「こころ」が41.1%と最も多く、「生活不安」「仕事」「人間関係」の順に続きました。
SNS相談窓口は、厳しい社会情勢の中、仕事や家事、育児に介護と、生きていくのが精一杯という女性たちの拠りどころとしての役割を果たしたと言えます。誰にも言えなかったことを、勇気を出して打ち明けてくれたことを受け止め、不安や孤独感を軽減するサポートができたのではないかと考えています。



出典：令和3年度大阪市女性のつながりサポートLINE相談

一方で、コロナ禍でさまざまな支援制度が創設、拡充されてきました。それらを含めた緊急援護資金、生活保護や助成金、奨学金などの制度。就職活動や職業訓練、専門相談などの情報。そうした制度や情報について、必要な人が知らないケースがとても多いことがわかりました。具体的な情報が届いていないのです。

各自治体はホームページなどで、そうした情報を発信していますが、当事者が自分からチェックをしない限りわかりません。ホームページを見ても、情報量が多く、探し方がわからないという声もありました。

困りごとをお聞きし、個々の状況に応じて適切な社会資源につなげる役割の大きさを改めて認識しました。

◀2022年度も引き続き実施している大阪市のLINE相談のSNS広報用画面。QRコードから友だち登録すると、相談できます。

自治体	取り組み	実施年度	内容
大阪市	コロナ禍における女性に対する支援事業	2021、22年度	SNS相談、生理用品の提供
堺市		2021、22年度	SNS等相談、生理用品の提供
八尾市		2021年度	ライフプラン相談、生理用品の提供

「生理の貧困」お金だけではない悩み

各自治体の男女共同参画センターなどでの生理用品の配布では、「仕事で来られない母親のために来た子ども」や「シングルマザーの娘のために来た母親」もいました。自分で取りに行きたくても行きにくい…。そうした事情がうかがえます。
「不安や悩みをどこに相談してよいか、相談しても良いことなのかわからずにいた」という女性が多いことも、スタッフらが配布する際の会話の中から見えてきました。生理用品の入手に困っている人に提供するだけではなく、相談先につながっていなかった人をつなげる効果がありました。

「生理の貧困」はお金の問題だけに留まりません。生理への偏見や無関心といった女性の健康をめぐる課題にも目を向ける必要もあります。
クレオ大阪中央で実施している「女の子のためのクレオ保健室」に寄せられた事例を紹介します。
10、20代女性の悩みにLINEで相談できる「女の子のためのクレオ保健室」。からだに関する悩みや、友人や交際相手との悩みなどに、女性の助産師、カウンセラーといった相談員が対応しています。
10代の女性から「生理痛がしんどい。お母さんに言ってもたいしたことないと言われてしまう」という相談が寄せられました。婦人科の受診はもちろん、友だちにも相談したことはなく、市販の鎮痛剤を服用して何とかしのいでいました。生理に伴う体調不良や症状は個人差が大きいため、同性や親子間でも理解されくいことがあります。
また、隠すべきものだとする風潮も根強く、友だちとの会話でも、生理について話題にすることがためらわれ、知識が乏しいままの状態が続きます。その結果、偏見や無関心を引き起こし、当事者の悩みや困りごとが解決されていかないのです。

このように、経済的な理由だけでなく、どこにでもある家庭にも生理に対する知識の貧困に起因する「つらさ」が生じています。
生理は、決して経血が流れる日というだけの話ではありません。1ヶ月ほどの周期を通じて、ホルモンバランスが変化することで、気分の落ち込みや、いらいら、肩こりや腰痛といった症状が起こります。そのために、学校や仕事を休まざるをえないというケースも少なくありません。
社会全体で、生理に関する理解を広める取り組みも求められています。

With/Afterコロナのジェンダー平等に向けて

コロナ禍で女性を取り巻く状況はなぜ厳しいのでしょう。以前から指摘されていた固定的な性別役割分担意識に基づく構造的な問題が、目に見える形で表れてきたからです。各自治体でも、支援の対応施策を継続し、当財団も引き続きSNS相談を担っています。

誰にも話せなかったことを受け止め、孤立感を軽減する。そうした拠りどころとしての役割だけではありません。相談や支援につながっていない女性を相談や支援につなげるガイドの役割、そして、支援につながってからの伴走的サポートの役割をこれからも果たしていきます。
伴走的サポートのその先として、自己肯定感や自己効力感を高めるような取り組みにも力を入れていきたいです。
「生理の貧困」も今後の課題です。金銭的な貧困としてのみで捉えるのではなく、正しい知識の不足という健康面や、生理による外出控えなどの機会損失の面もあることが明らかになってきました。まずは、大人が生理について口に出しても恥ずかしくないと思える社会と、その空気をつくっていくことが必要です。

女性の尊厳や社会活動の機会が失われることなく、生理に対する当たり前のニーズが満たされる社会。

行政、民間企業・団体と連携し、誰もが自分らしく活躍できる未来をめざして、私たちは歩んでいきます。

あなたと共につくる　よりよい未来

大阪市男女いきいき財団では、大阪市の受託事業として、よりよい暮らし、生き方、働き方について考えるきっかけづくりに向けた「男女共同参画キャッチフレーズ」を募集しました。応募数は128点。自分の中のアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に気づいたり、今後の行動の指針になったり。心に響く作品が集まりました。キャッチフレーズをヒントに、あなたも男女共同参画に向けたアクションを実践していきませんか？
入選作品は以下のとおり。

テーマ：ジェンダー平等

最優秀賞

人生はカラフル。
だから、自分の色は、自分が決める。

優秀賞

- 私だってやってみたい。チャンスをください、掴むから。
- この世に1人しかいない私という個人。
- そのまま、ありのまま、自分が好きでいられるように
- 虹はみんなの心の色。どれも素敵でキラキラ輝いてる！
- 一人一人が未来を自由に選べるように
- その仕事、性別関係ありますか？

最優秀賞　　小田　邦子さん

その人の人生はその人のもの。誰かに決められるのではなく、みんなが主体性を持って生きてほしい。そんな思いを込めました。時には、周りに流されたり、同調圧力に負けてしまったりすることもあるかもしれません。自分を貫く「強さ」を胸に、進んでいきましょう！

テーマ：児童虐待防止

最優秀賞

「どうしたのかな…？」
その違和感を見逃さないで！

優秀賞

- 同じじゃないよ　おとなの軽いはこどもの重い
- 見逃すな　マスクの下の　泣いてる顔
- あの子の笑顔を最近みましたか？
- みんな、子どもの頃、守られていたんだよ。
- まもりたい、あなたのその手はいのちをつなぐもの
- 子どもの悲鳴・親の悲鳴　どちらか壊れるその前に

最優秀賞　　服部　直子さん

周りの人の少しの心がけで、児童虐待が防げるはず。行動を起こすきっかけになることを願って考えました。
自分が子どもだったらどうするだろう。どう感じるのだろう…。大人になってからも、子どもの視点で物事を考えてみることが大切だと思います。

テーマ：男性の家事・育児

最優秀賞

父親だから、母親だから、じゃない。
家族だから。

優秀賞

- 育児によって育つのは、子どもだけではない
- その背中を見て、私たちは育った。
- まずはできることから、幸せも疲れも分かち合おう
- 会社ではベテラン　でも　育児は新人　育休は必要
- 今しかできない　いっしょに子育て
- みんなで住んでる家だから。

最優秀賞　　與島　加津美さん

多様性が広がり、家庭での偏った役割分担が見直されています。
家族はチーム。それぞれができることを生かし、苦手なことは補う関係性が築けるといいですね。現在、夫と共働きで息子を育てていますが、家族3人で家事を助け合い、日々を楽しみながら過ごしていきたいです。